

2012年度

私立大学図書館協会研究助成  
「機関研究」報告書

「図書館留学；教職協働の学習支援への取り組み～語学力の向上に向けて～」

2013年3月31日

神戸学院大学図書館 私立大学図書館協会研究助成「機関研究」  
研究プロジェクト・チーム

私立大学図書館協会研究助成「機関研究」  
「図書館留学；教職協働の学習支援への取り組み～語学力の向上に向けて～」

目次

1.	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2.	多読ラリー「てくてく English」について・・・・・・・・	3
3.	2011 年度予備的調査研究結果の検証について・・・・・・・・	5
4.	他大学等の先進事例実地調査・・・・・・・・・・・・・・・・	18
5.	2012 年度本調査研究の実施・・・・・・・・・・・・・・・・	19
6.	おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33

## 1. はじめに

神戸学院大学（以下「本学」という。）は、2012年に法人創立100周年を迎えた。7学部と7研究科、1専門職大学院を設置し、学生数は約10,000人、教職員数は約500人の中規模大学である。本学は、神戸市西区の緑豊かな有瀬キャンパスに建設された有瀬図書館と、神戸市中央区の海上に広がるポートアイランドキャンパスに2007年に完成したポーアイ図書館とを有している。有瀬図書館は、本館機能を有している。本学図書館には、年間40万人近くの利用者が訪れており、蔵書数は約108万冊である。

本学図書館の運営形態で特徴的であることは、全面業務委託を行っていることである。ポーアイ図書館は、2007年4月から全面業務委託を行っており、本館機能を有する有瀬図書館は、2008年4月から整理部門（整理業務全般）と利用サービス部門（閲覧業務全般）を業務委託化した。専任職員は、有瀬図書館の運営部門に7人いるのみで、その他の40人は全て委託職員である。

2011年4月より開始された「図書館留学」は、全面業務委託にシフトした本学図書館において、委託職員である図書館司書自らがイニシアチブを取って企画・展開している教職協働の学習支援の取り組みである。

「図書館留学」の目的は、就職活動においても重要視されている英語力をつけるための様々な支援を行うことにより、教育の場としての図書館の位置付けを明確にしようとするものである。近年就職する際に必須とも言われている英語力ではあるが、一朝一夕に実力がつくものではない。そこで、「図書館留学」と銘打ち、図書館が、英語を学習できる場と、適切な資料を提供することにより、英語力アップを図れる環境を整え、また、様々な企画により、学生が英語に興味、関心を持ち、楽しく英語学習を継続できるよう、支援していくこととした。

「図書館留学」の構成は、2011年4月の時点では7種類のメニューで構成されていたが、2013年1月31日現在、メニューは以下の10種類に増え、様々な形で図書館から学生に支援を提供している。

- ① 図書館留学コーナー
- ② My Favorite Book コーナー
- ③ Bilingual Library
- ④ 多読ラリー「てくてく English」
- ⑤ 多聴ラリー「English シャワー」
- ⑥ シネマで週1 English
- ⑦ Reading Square ～英語で語ろう！～
- ⑧ 英語で Book Talk
- ⑨ 英語で Talk ～Let's enjoy English～
- ⑩ キャリアコーナー「世界を舞台に働こう！」

- ① 図書館留学コーナーでは、**Oxford Reading Tree** など、イギリスでは子供の読みもの教材として扱われているような質の高い本、洋絵本や日本の昔話の英訳本など、様々なジャンルの多読・多聴用図書が配架されている。また教員の推薦図書や図書館スタッフによる季節ごとの図書展示（てくてく **Selection**）など、利用者の興味や関心をひく工夫をこらしている。
- ② **My Favorite Book** コーナーでは、多読・多聴用図書の中から、参加学生同士が互いに推薦する本を紹介するコーナーである。図書館あるいは授業内で配布される所定の用紙に物語のあらすじを日本語で、書評を英語でまとめたものが常時展示されている。また教員も同様に利用者に向けて推薦図書の書評を行っている。
- ③ **Bilingual Library** は留学生や外国人教員の図書館利用支援の他、英語に親しみたい学生のために、図書館司書による英語での対応カウンターが設けられている。
- ④ 多読ラリー『てくてく **English**』では、図書館でラリー参加の登録をし、「てくてくノート」と呼ばれるリーディング記録手帳を受け取り、簡単な本から、無理なく楽しみながら多読用図書を読み進める。「てくてくノート」には読んだ本の語数と、読み進めてきた総語数を記入する欄が設けられており、ゲームのような感覚で多読に取り組むことができる。
- ⑤ 多聴ラリー『**English Shower** シャワー』では、多読ラリーと同様に参加登録後に記録手帳を受け取り、記録していく。多読用図書に CD が付随するもので、CD を聞きながら文字を追ったり、シャドーイング に取り組むことで、リスニング力の向上はもちろん、発音の向上も期待できる。
- ⑥ シネマで週 **1 English** では、視聴覚資料を活用し、映画から生きた英語に触れるチャンスを提供する。洋画や英語のアニメを英語字幕で見ることで、リスニング力を養い、また生きたフレーズを学ぶことができる。
- ⑦ **Reading Square** ～英語で語ろう！～は、アウトプットを目的としている。④～⑥の項目でインプットを補い、その次の段階として実際に英語で話す活動である。毎回、多読用図書を 1 冊選び、一緒に読み、その内容について英語で質疑応答したり、話し合うものである。
- ⑧ 英語で **Book Talk** では、多読や多聴で上達した英語力を学内の人々に披露する場所を提供するものである。多読・多聴を通して出会った本の紹介や、英語力向上のために自分なりに工夫や努力したことなどを自由に発表し合うものである。
- ⑨ 英語で **Talk** ～**Let's enjoy English**～は、実際にネイティブスピーカーと英語で話す機会を設けるために、定期的にイギリスからの交換留学生を図書館に招き、学生同士がさまざまなトピックで自由に会話を楽しめる空間を提供している。
- ⑩ キャリアコーナー『世界を舞台に働こう！』は、語学力を生かして世界で活躍している人物やその仕事を紹介するコーナーである。また、実際に海外で働く機会にチャレンジする際、面接時に役立つ英会話やビジネス英語など、実践的なスキルを磨くため

の資料を2ヶ月ごとに内容を変えて展示している。

①～③のメニューでは、英語を学習できる「場」を、④～⑥のメニューでは、英語をできるだけ多く「インプット」する機会を、⑦～⑨では、「インプット」した英語を「アウトプット」する機会をそれぞれ提供している。さらに、学生の間には確かな語学力を身につけて、世界に羽ばたいてほしいという願いを込めて、⑩のキャリアコーナーを設けている。

さらに、「図書館留学」は、図書館が主体となって、教員への働きかけを通じて、語学（英語）の授業と連携を図る取り組みとなっている。

図書館が主体となって、学生の語学力を高める支援に乗り出した経緯は、①近年新入生の英語力の低下のため、英語圏の協定大学（英国リーズ大学等）が求める TOEFL のスコアに達することができず、ここ2～3年、交換留学生として、本学から学生を1人も派遣できていないこと、②就職活動の際にも、本学の学生は、英語の苦手意識が払拭できないために、苦戦を強いられている現状を図書館が主体となって打破できないものかと考え、「図書館留学」と銘打つ支援を打ち出した。

上記の「図書館留学」メニューの中核を成し、教員との連携によりはじめて実現できる④多読ラリー「てくてく English」に絞って研究助成「機関研究」への申請を行った。

## 2. 多読ラリー「てくてく English」について

### (1) 多読ラリー「てくてく English」の仕組みについて

多読ラリー「てくてく English」は、図書館主導で、2011年の春に入学した学生が卒業するまでに、英語力をつけようという4年がかりの構想である。

従来の読書ラリーの英語版であるが、ポイントを貸出1冊につき1ポイントとして数えるのではなく、単語数でカウントし、それを「てくてくノート」と呼ばれるリーディング記録手帳に残すことで、こんなにながら読んでいたのだといった実感を学生に持たせることに重点を置いている。

さらに、達成した語数に応じて、図書館オリジナルグッズ（クリアファイル、エコバッグ）や図書カードを進呈することで、エントリー学生が多読ラリーに取り組むモチベーションを高めている。

6万語達成すると、TOEICの成績が平均40点伸びたとの研究結果があることから、まずは、4年間で6万語を目指すこととした。対象の図書は、絵本、Readersとし、自分のレベルに合った洋書からスタートできるように配慮している。

### (2) 多読ラリー「てくてく English」の実績について

多読ラリー「てくてく English」の取り組みは、当初、4人の連携教員と266人のエントリー学生からスタートした。2013年1月31日現在では、連携教員は8人に倍増し、エントリー学生も710人と3倍近くに増加している。また、当初は4年間で6万語を到達目標に設定していたが、1年以内に6万語を達成した学生から再度取り組みた

いとこの要望が相次いだ。そこで、2012年4月からは、最終到達目標の語数を100万語とし、「てくてく English」のシステムを見直した。2013年1月31日現在では、6万語を50人、10万語を15人、さらに50万語も2人が達成している。（＜表1＞参照）

＜表1＞多読ラリー「てくてく English」申込者数・ポイント達成者数 2013年1月31日現在】

区 分	申込者数	ポイント達成者数						
		5千語	2万語	4万語	6万語	10万語	50万語	
学 生	法 学 部	204 178 26	89 77 12	34 3 3	21 20 1	10 10 0	3 3 0	1 1 0
	経 済 学 部	31 27 4	15 14 1	7 7 0	1 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
	経 営 学 部	206 184 22	107 104 3	79 79 0	45 45 0	18 18 0	6 6 0	1 1 0
	人 文 学 部	158 158 0	69 69 0	50 50 0	31 31 0	13 13 0	2 2 0	0 0 0
	総合リハビリテーション学部	12 12 0	4 4 0	2 2 0	2 2 0	1 1 0	1 1 0	0 0 0
	栄 養 学 部	4 4 0	1 1 0	1 1 0	1 0 0	1 1 0	0 0 0	0 0 0
	薬 学 部	32 1 31	16 1 15	5 0 5	5 0 5	4 0 4	2 0 2	0 0 0
卒 業 生	5 3 2	3 3 0	2 2 0	2 2 0	1 1 0	0 0 0	0 0 0	
学外利用登録者	10 9 1	4 4 0	3 3 0	3 3 0	2 2 0	1 1 0	0 0 0	
教 職 員	13 10 3	2 2 0	1 1 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	
附 属 高 校	35 35 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	
合 計	710 621 89	310 279 31	184 176 8	111 105 6	50 46 4	15 13 2	2 2 0	

注：上段の数字は、有瀬・ポーアイ両館の総人数

下段の左側の数字は有瀬図書館、下段の右側の数字はポーアイ図書館の人数

### (3) 多聴ラリー「English シャワー」申込者数及びポイント達成者数について

参考までに、メニュー⑤多聴ラリー「English シャワー」についても、実績を紹介する。多聴ラリー「English シャワー」では、多読ラリーと同様に参加登録後に記録手帳を受け取り、記録していく。多読用図書にCDが付随するもので、CDを聞きながら文字を追ったり、シャドーイングに取り組んだりすることで、リスニング力の向上はもちろん、発音の向上も期待できる。（＜表2＞参照）

<表2>多聴ラリー「English シャワー」申込者数・ポイント達成者数 2013年1月31日現在】

区 分		申込者数	ポイント達成者数					
			5千語	2万語	4万語	6万語	10万語	50万語
学 生	法 学 部	22 21 : 1	5 4 : 1	2 1 : 1	2 1 : 1	1 1 : 0	1 1 : 0	0 0 : 0
	経 済 学 部	3 3 : 0	1 1 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0
	経 営 学 部	4 3 : 1	1 1 : 0	1 1 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0
	人 文 学 部	19 19 : 0	2 2 : 0	1 1 : 0	1 1 : 0	1 1 : 0	1 1 : 0	1 1 : 0
	総合リハビリテーション学部	3 3 : 0	2 2 : 0	2 2 : 0	1 1 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0
	栄 養 学 部	3 3 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0
	薬 学 部	10 C : 1C	4 3 : 4	2 C : 2	2 0 : 2	2 0 : 2	0 0 : 0	0 0 : 0
卒 業 生	2 2 : 0	1 1 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	
学外利用登録者	5 5 : 0	2 2 : 0	1 1 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	
教 職 員	4 1 : 3	1 0 : 1	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	
附 属 高 校	35 35 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	0 0 : 0	
合 計	11C 95 : 15	19 13 : 6	9 6 : 3	6 3 : 3	4 2 : 2	2 2 : 0	1 1 : 0	

### 3. 2011年度予備的調査研究結果の検証について

#### (1) エントリー学生に対するヒアリング及びアンケート調査について

##### ①エントリー学生に対するヒアリングについて

無作為抽出したエントリー学生に多読ラリーの効果、英語力アップの実感等についてヒアリングを行った。ヒアリング結果は、以下のとおりである。TOEICのスコアが100点もアップしたこともさることながら、「てくてく English」に参加したことで、単なる“勉強”だった英語が“コミュニケーションツール”へ変わったことを実感しており、英語を使って世界を広げていきたいと抱負を語ってくれたことが印象的であった。

##### [ヒアリング結果]

私は、中学時代から英語が苦手でした。しかし、将来は大学院に進学したいと考えており、入試や論文を読むために英語は必須です。そうしたこともあり、大学では英語科目を多く履修するようにしました。そんなときに出会ったのが多読ラリー『てくてく English』です。授業の一貫として組み込まれていたため始めたプログラムでしたが、このプログラムに参加して英語に対する意識が大きく変わりました。

『てくてく English』で読むのは基本的に絵本シリーズのため、省略語や日常会話で使われているフレーズが頻繁に登場し、表現が平易で読みやすいものばかりです。とにかく慣れようと、少しずつでも毎日読むようにしました。すると、いつの間にか英語が苦にならなくなったばかりか、もっと英語に接したいと思うようになってきました。今では「図書館留学」の別のメニューで留学生とのフリートークに参加するまでになっています。英語の実力も身に付いてきているのか、TOEIC のスコアが多読ラリーを始める前より 100 点もアップしました。何よりの変化は、『てくてく English』に参加したことで、単なる“勉強”だった英語が“コミュニケーションツール”へ変わったことです。今後は、英語を使って世界を広げていきたいと思っています。(人文学部 3 年次生)



【多読コーナーで本を選ぶ学生たち】

## ②エントリー学生に対するアンケート調査について

エントリー学生に対してアンケート調査を実施した。その結果は、以下のとおりである。(＜表 3＞参照)

調査対象エントリー学生 93 人中 73 人 (78%) が「てくてく English」に参加して楽しかった、93 人中 79 人 (85%) が英語に対する興味・関心が増した、93 人中 75 人 (81%) が英語力のアップを実感したと回答している。また、「てくてく English」を続けていて良かったこととして、英語が読めるようになった、英語が少し好きになった、高校まで嫌いだった英語が読書を続けることで楽しいものになった、英語が苦手ではなくなった、英語が近い存在になったなど、エントリー学生から圧倒的に支持されていることを実感した。

＜表 3＞多読ラリー「てくてく English」アンケート② 2011 年度集計結果-有瀬館

回答数：93 人

1. 下記のいずれかに○をお願いします。

学生	法学部	56 人
	経済学部	2 人
	経営学部	4 人
	人文学部	25 人
	総合リハビリテーション学部	1 人



学生	栄養学部	1人
	薬学部	1人
院生		0人
教職員		0人
教育後援会		0人
卒業生		0人
学外利用登録者		1人
無回答		2人

2. 「てくてく English」の2. 「てくてく English 現在の獲得語数を教えてください。

0～5,000 語	26人
5,001～20,000 語	37人
20,001～40,000 語	12人
40,001～60,000 語	5人
60,000 語以上	5人
無回答	8人

3. 「てくてく English」に参加して、楽しかったですか。

強くそう思う	25人
ややそう思う	48人
どちらともいえない	17人
あまりそう思わない	2人
全くそう思わない	0人
その他	0人
無回答	1人

4. 多読する本を選ぶとき、何を基準に選びましたか。

- ・読みやすそうな本 (6)
- ・簡単そうなもの (2)
- ・語数 (6)
- ・語数が少ないもの (7)
- ・語数と絵 (2)
- ・200 語前後の本 (2)
- ・元が日本語で書かれた本、短編で構成された本、シリーズ物
- ・読みたいか、読みたくないか (直感で)

- ・ 200～300 語で、読みやすそうな本
- ・ 300 語以内の本
- ・ 興味がわいたもの
- ・ ①絵 ②雰囲気
- ・ イラストが入った絵本と、語が少ない本
- ・ 気軽に読むことのできる本
- ・ 読みやすいことを基準に選んだ
- ・ ジャンルで (ホラー、クラシック等)
- ・ 作者と、400 語以上 1000 語以内の本
- ・ パッと開いてわかりやすそうかどうかを基準にします
- ・ 1000 字～100 字以内の本
- ・ 楽しそうな本
- ・ 簡単なもので絵がわかりやすい
- ・ Oxford の本
- ・ あまり難しくない物、内容の面白そうなもの
- ・ 50～200 くらいの語数
- ・ わかりやすい本
- ・ 単語数が 500 以内のもの
- ・ 読んで楽しそうな本で、語数 0～2000 語
- ・ 語数が 300 ぐらいのものをたくさん読むようにした
- ・ 自分のレベルにあったもの
- ・ 文字数が比較的少なそうな本
- ・ 内容がおもしろそうな本を選びました
- ・ 物語
- ・ 絵がかわいい本
- ・ 200～300 ぐらいの本。理由は読みやすい分量だから
- ・ わかりやすそうな本。500 語くらいから 1000 語くらいの本
- ・ 語数と絵のかわいさ
- ・ 絵が可愛いかな。読みやすそうかな。興味をもてそうかな
- ・ 語数と本の内容
- ・ Roderick Hunt Alex Brychta の本
- ・ 語数の多さと英語の難易度の低さ
- ・ 語数が多いもの(2)
- ・ 日本語で読んだことのある本
- ・ 文章が簡単で、読みやすそうなもの
- ・ 自分の英語のレベル

- ・なるべく 2000 語以内の 1 ページあたりの文字数が少ないもの
- ・500～1000 文字程度で、興味のあるもの
- ・600 語以内の本
- ・500 語以内(2 名)
- ・200～500 字くらいで、分からない単語のないもの
- ・400 語以内
- ・200 から 300 語ぐらいのもの(2 名)
- ・100 語前後の本(2 名)
- ・ストーリーのある本、分からない単語があれば意味を想像できる
- ・絵がある本、読みやすいから。(2 名)
- ・絵が楽しそうで、読み進めたいと直感で感じるかどうか
- ・見た目や絵がおもしろかったもの(6 名)
- ・読んでみたいと思った本
- ・簡単な英語で書かれている本(2 名)

5. 「てくてく English」に参加することによって、英語に対する興味・関心が増しましたか。

強くそう思う	25 人
ややそう思う	54 人
どちらともいえない	11 人
あまりそう思わない	2 人
全くそう思わない	0 人
その他	0 人
無回答	1 人

6. 「てくてく English」に参加する前と後とで、あなたの英語力に変化はありましたか。

(複数回答有り)

英語を読む力がついたと思う	70 人
英語を聞く力がついたと思う	2 人
英語を話す力がついたと思う	3 人
変わらない	18 人
その他	1 人
無回答	1 人

7. 多読をした効果について、うかがいます

①英文を読むことが、

楽しい	19人
まあまあ楽しい	39人
普通	31人
苦になる	2人
とても苦痛だ	0人
どちらともいえない	1人
無回答	1人

②辞書を引かずに英文を読めるようになりましたか

読めるようになった	58人
辞書がないと英文を読めない	31人
無回答	4人

③英語の本・雑誌を

最近よく読む	17人
以前からよく読んでいる	7人
あまり読まない	52人
全く読まない	15人
無回答	2人

④英文を読むとき

日本語に訳して理解している	51人
英文を英文のまま理解している	39人
無回答	3人

⑤英文に限らず、本・雑誌を

最近よく読む	25人
以前からよく読んでいる	25人
あまり読まない	35人
全く読まない	5人
無回答	3人

⑥多読をすることで、

英語を勉強する習慣がついた	35人
英語に限らず勉強する習慣がついた	15人
以前と変わらない	39人
無回答	4人

8. 「てくてく English」を続けていて、良かったこと、良くなかったことを具体的にお聞かせください。

- ・意味を知らない単語でも何となく意味が理解できるようになった
- ・英語の本・文章に対する抵抗が（少し）無くなったように思える
- ・本を読む習慣ができた
- ・英語力が以前と変わらないので、これからがんばりたい
- ・以前よりも英語にふれる機会が増えて、よかったと思う
- ・英語が読めるようになりました
- ・英語が少し好きになりました
- ・その単語のまま理解せず、流れと全体の感じで話を読んで、すごく自然に読めていけるようになった
- ・良いことばかりしか、私は思いつきません
- ・語学試験に対して、目標を持って取り組むことができました
- ・良かったことは、英文を読むときに理解できずに調べたりしなくてよくなったこと。  
良くなかったことは、特になし
- ・高校まで嫌いだった英語が、読書を続けることで、楽しいものになりました
- ・目標がはっきりしているので苦なく、楽しくつづけることができた
- ・雰囲気わかるようになった
- ・良かったことは、英文読解力をつけることができたことです
- ・英語の文を読む力がついた
- ・短文の本でも力がつくことがわかった
- ・早く読めるようになった
- ・英語が苦手ではなかった
- ・ファイルがもらえた
- ・本を読む楽しさを感じた
- ・英文に少し慣れた
- ・興味が持てた。でも時間がかかる
- ・英語を読むことが身に付いた気がする
- ・英訳を早くすることができるようになった
- ・英文を理解できるようになった

- ・英語にふれる機会が増えた
- ・今まで英語の本など全く読まなかったけど、週一回読むことが習慣づいてよかった
- ・語数がモチベーションになった
- ・定期的続けることで、すらすら読めるようになってよかった
- ・英語を英語のまま読むのでなくて、絵などから推測するようになったのがよかった
- ・ごほうびがもらえる
- ・My Favorite 本についてきちんと説明してほしかった
- ・習慣化されたのがとてもよかった
- ・もっと本を置いてほしい
  - ・英語の本を読む習慣がなかったので面白かった
  - ・良かったことは、自分のペースで進めることができる
  - ・良かった！！
  - ・英語に触れる機会が多くとれたのでよかった
  - ・英語が近い存在になった
  - ・読むスピードが速くなりました
  - ・英語をみるのに慣れた
  - ・少し英語が楽しく思えた
  - ・英語の文章の中に分からない単語が出てきても、大体の意味が分かった
  - ・良かったことは、英語を読む力がついてきたこと。良くなかったことは、特にないです
  - ・読み終えた達成感が良かった。時間がものすごくかかった
  - ・語数が少ないものだったら、英語を読むことが嫌いじゃなくなった
  - ・簡単な文でも読んでいれば、簡単な英文を苦にならず読めるようになった
  - ・英文に触れる機会が増えた

9. 語学関係の試験（英語以外も含めて）を受験されたことがある方はその内容についてお教えてください。

1年間多読ラリー「てくてく English」を継続後、

TOEIC 最高スコア:「てくてく English」 参加前の点数 470 点 → 参加後の点数 590 点

TOEIC 最高スコア 560 点取得

英検 2 級 取得

10. 「てくてく English」で、あなたが読んだ本で、一番印象に残った本は何ですか

タイトル	選んだ理由
“Frog and Toad All Year”	シリーズの中で最初に手にした本だから 季節ごとの短編集で読みやすかったから
おさるのジョージ	アニメを見たことがあるので取っ付きやすかった
“Dino’s Day in London”	まさかの結末に驚かされたから
“COLOR 200”	動物が可愛かった
“I can share”	簡単すぎてびっくりした
“Frog and Duck”	絵がかわいかったので
“The Pencil”	The Ginger Bread や Peek-A-B00! もよかったけど、一番ユーモアですごくドキドキワクワクしたから。あと発想が良かった
“John Birmingham”	イラストが入っているから
Oxford Reading Tree シリーズ	読みやすい
“Avocado Baby”	作者の John Birmingham の絵が好き 内容もシュールだけど前向きになれる
おさるのジョージ	日本語で読んだことがあったから
“The Story of Chocolate”	興味深かった
“Go Away, Floppy”	フロッピーがかawaiiそうだったから
“What a DIC”	タイトルにインパクトがあった
“The truth machine”	長かったから
“Who’s there on Halloween?”	Halloween が授業で遊び楽しかったから
“Bunny Race”	長くて難しかったから
“The snowman”	季節にあっていて楽しかったから
“Froggy Gets Dressed”	絵がかawaiiらしい
“Floppy’s Bath”	内容がおもしろかった
“In a Bit ”	単語数を見て選んだ
“No Hitting!”	赤ちゃんがかawaiiかったから
“Cliford”	シリーズもので絵がかawaiiくおもしろい内容だったから
“The giving Tree”	自然に関する本だから
“The Great Race”	語数
“The Memory Ma n ”	難しかったけど、内容がおもしろかった

“Vampire Killer”	悪霊に関する話はおもしろかった
“Fish Eyes”	いろいろな色の魚が見られてとてもきれいだったからです
“Sniff”	犬が飼い主を守るのがとてもよく描かれていたと思ったから
“Revolting Rhymes”	日本語ではあまりない様な本だったので
“Dr Mouse’s Mission”	自分が昔読んだ絵本の『ぐりとぐら』に似ていたので
“Can you see me ?”	おもしろかったから
“The giving Tree”	内容が感動。考えさせられる
“Don’t Forget I Love You”	親子のくまのやりとりがかわいい。メッセージ性が強い
カエルさんシリーズ	絵がとてもかわいかったから
“I’ll always love you”	犬が好きなので。とても感動しました
“Leonardo Dicaprio ”	記載なし
“The Time Web”	キッパーの成長した内容だったから
“Moonlight the Halloween Cat”	最後に読んだし、最後なんか悲しかったから
“Touch and Fell”	触って楽しめたから
“Mr. Crow’s Bakery”	日本語版が好きだったから
“TITANIC”	映画がとてもステキで大好きだから
“Simon and The Spy”	いかにもコメディ！！といったストーリーでおもしろかった
“Mother Teresa”	尊敬している人だから
“Busy Bus”	バスがとり外しできた
“The England Football”	サッカーは大好き
ねずみくんのチョッキ	昔から知っているから
動物のやつ	かわいいから
“Boss Baby”	ストーリーがおもしろく、文章もわかり易かった
“Whate v er”	衝撃的だった
“I Can Share”	心がほっこりしたから
“The gift of Nothing”	絵がかわいく、読みやすく、胸がほっこりする誰かにプレゼントしたいくらい



スイミー	日本語で読んだことがあったので、英語で読んで違いを見れた
赤ちゃんのやつ	絵が汚かった
“No, David”	やんちゃで楽しかった
“Frog and Toad”	日本語版で昔好きだったので
“The Adventures of Sherlock Holmes”	ホームズシリーズが好きだから
Curious George シリーズ	はなしの展開がおもしろいし、かわいい
“Harvey Slumfenburger's Christmas Present”	絵もかわいくらしく、ストーリーがあたたかくておもしろいから
“Katie and Boo”	かわいすぎて楽しく読めたから
“The three walves and Bad Big Pig”	コメディタッチで描かれていて面白かった
“Frog in Love”	可愛いお話だが、非常にメッセージ性の強い物語だったから
“FROGGY LEARNS TO SWIM”	絵がとても可愛い。内容に笑う所がある
“Katie and Boo”	プレゼンを授業でした時にこの本を発表した
“BIG BENIE'S BED”	ポスターを作ったので思い入れがある
“ALDO”	絵本にしてはシビアな内容だったから

11. 多読ラリー「てくてく English」に関するご意見、ご提案またはご要望などがありましたら、

ご自由にお書き下さい。

- ・ 沢山のユーモアな作品をどんどん入れてほしいです！
- ・ これからもこつこつと努力をして、資格につなげていきます
- ・ 楽しい企画で良いと思う
- ・ どこに置いているか、わかりにくかった
- ・ どんどん本を増やしてほしい
- ・ 語数によって商品があるとかがよいと思います
- ・ 本の種類は、はっきり分けてほしいんです
- ・ もっとポーアイの本を増やしてほしい
- ・ スポーツ誌を置いてほしい
- ・ もっと童話の話を増やしてほしい
- ・ なんか本を選びにくい
- ・ 本の前のイス、ありがとうございます。
- ・ 英文新聞が借りられたら嬉しいです

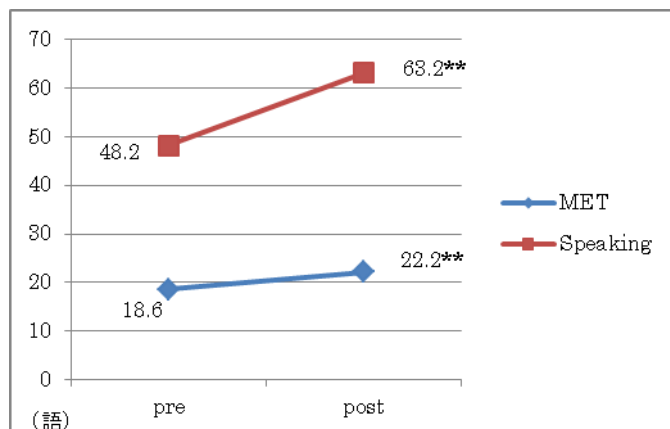
- ・絵が可愛い絵本をもっと集めてもらいたいです
- ・もっと絵の可愛いものの本の量をふやしてほしい
- ・語数順で本をわけたら段階ふんで読んでいけそうな気がします
- ・豪華商品
- ・もっと何語で何かもらえるのを語数をへらしたらみんなやと思う
- ・課題のためにやりました
- ・物語シリーズの簡単なものもあればいい
- ・種類をもう少し増やしてほしい
- ・100ワード以下の本を増やしてほしい
- ・絵本とうすい本（物語）の内容と語数が比例していないと思った。（難しいのに少ない）

## (2) 賛同いただいた2名の教員からの評価について

「図書館留学」に賛同してくださった先生方が授業に取り入れてくださっているが、「図書館留学」の効果を知るため、2011年度後期授業内で、多読ラリー「てくてく English」への参加を義務付けていただいた。学期の始めと終わりに、35人の学生（1、2回生）に対して Minimal English Test (MET6) というリスニングテストを行い、さらに、そのうち13人に対して6コマ漫画を用いたスピーキングテスト（ストーリー・テリング課題）を行った。MET6では、CDを聞きながら6語に1語の割合で空欄（計65箇所）を埋めていく（所要時間は約5分間）。ストーリー・テリング課題では、受験者は「ピクニック」をテーマにした6コマ漫画を手渡され、3分間でストーリーを考え、3分間で英語で説明するように指示された。受験者の発話はICレコーダーに録音され、その後文字に書き起こされた。いずれのテストも、事前・事後テストの形で実施し、多読の効果調べた。

t検定の結果、MET6では、事前・事後テスト間で平均正答数が18.6語から22.2語に有意に伸びた ( $t(34) = 4.23, p < .001$ )。ストーリー・テリング課題では、書き起こした発話の総語数 (tokens) と異なり語数 (types) をカウントしたところ、事前・事後テスト間で総語数は48.2語から63.2語 ( $t(12) = 4.22, p < .01$ )、異なり語数は24.2語から30.2語 ( $t(12) = 4.16, p < .01$ )と有意に伸びた。いずれのテストにおいても、事後テストでより多くの異なる語を産出していたことから、言語形式（リスニング／スピーキング）にかかわらず、多読によって未知語の習得および既知語の検索が促進された可能性が示唆された。(1) (<表4>参照)

<表 4>

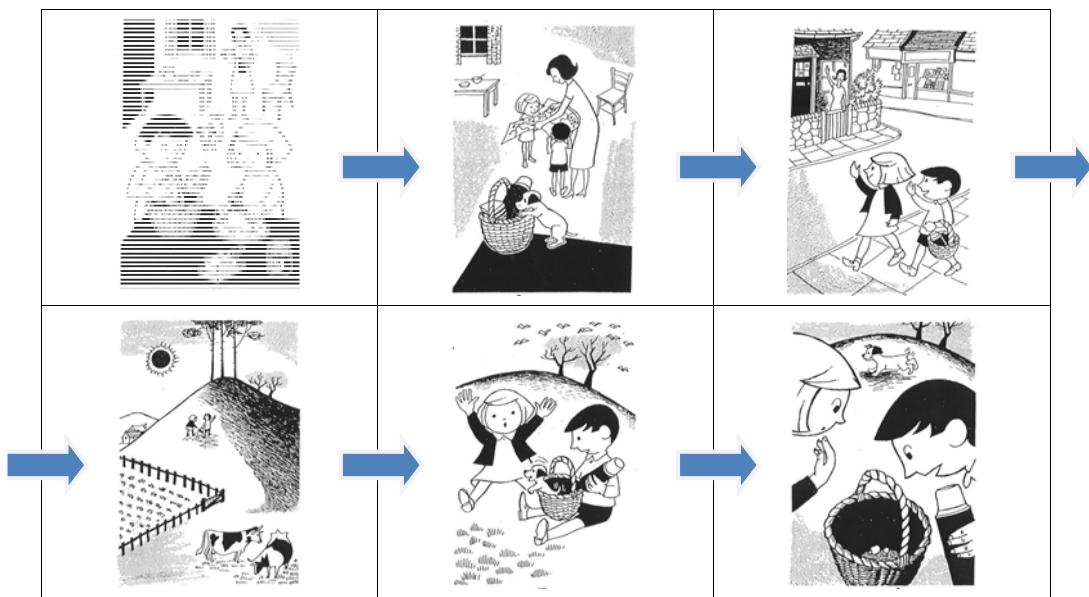


<表 5>MET6

1. The majority of people have ( ) least one pet at some ( ) in their life.
2. Sometimes the ( ) between a pet dog or ( ) and its owner
3. is so ( ) that they begin to resemble ( ) other in their appearance
4. and ( ). On the other hand, owners ( ) unusual pets
5. such as tigers ( ) snakes sometimes have to protect ( ) from their own pets.
6. Thirty ( ) ago the idea of an ( ) pet first arose.
7. This was ( ) pet rock, which became a ( ) in the United States
8. and ( ) to other countries as well. ( ) paid large sums of money
9. ( ) ordinary rocks and assigned them ( ).
10. They tied a leash around ( ) rock and pulled it down ( ) street just like a dog.
11. ( ) rock owners even talked to ( ) pet rocks.
12. Now that we ( ) entered the computer age, we ( ) virtual pets.
13. The Japanese Tamagotchi--the ( ) chicken egg--
14. was the precursor ( ) many virtual pets.
15. Now there ( ) an ever-increasing number of such ( ) pets
16. which mostly young people ( ) adopting as their own.
17. And ( ) your virtual pet dies, you ( ) reserve a permanent resting place
18. ( ) the Internet in a virtual ( ) cemetery.
19. Sports are big business. ( ) Babe Ruth, the most famous athlete of ( ) day,
20. was well-known for earning ( ) much as the President of ( ) United States,
21. the average salary ( ) today's professional baseball players
22. is ( ) times that of the President. ( ) a handful of sports superstars
23. ( ) one hundred times more through ( ) contracts with manufacturers

24. of clothing, (      ), and sports equipment. But every (                    ) produces
25. one or two legendary (                    ) who rewrite the record books,
26. (                    ) whose ability and achievements are (                    ) for generations.
27. In the current (                    ) Tiger Woods and Michael Jordan are two such legendary (                    ),
28. both of whom have achieved (                    ) mythical status.
29. The fact that (      ) large number of professional athletes (                    ) huge incomes
30. has led to (                    ) competition throughout the sports world.
31. (                    ) send their children to sports (                    ) camps at an early age.
32. (                    ) kids typically practice three to (                    ) hours a day,
33. all weekend (                    ) during their school vacations in (                    ) to better their chances
34. of (                    ) obtaining a well-paid position on (                    ) professional team
35. when they grow (                    ). As for the many young (                    ) who do not succeed,
36. one (                    ) if they will regret having (                    ) their childhood.

<表 6>6 コマ漫画



#### 4. 他大学等の先進事例実地調査

当初は、英語の多読による先進事例を有している東海地区の名城大学と豊田高専に赴き、担当教員との意見交換、授業参観等を通じて、本学の多読ラリーの更なる向上を図ることを計画していた。しかしながら、2013年2月23日(土)に大阪経済大学で開催された日本多読学会第6回関西多読新人セミナーでは、豊田高専をはじめとする7校の多読の取り組み事例が一挙に発表されており、実地調査よりも豊富な先進事例に触れる

ことができると判断した。そこで、研究助成委員会事務局に事前了承を得たうえで、実地調査に変えて同セミナーに参加することにした。

同セミナーのプログラムは、以下のとおりであった。

[プログラム]

- ①多読と文法学習 安福勝人(武庫川女子中高校)
  - ②多読に向けて～幼児、小学生への読書指導～ 中村麻里 (English Square)
  - ③多読図書のコーディネート：やさしく、楽しく 黛道子 (順天堂大学)
- \*昼食休憩
- 大阪経済大学図書館 多読コーナーの見学
- ④How to write graded readers-a voice from the inside Rob Waring(ノートルダム清心女子大学)
  - ⑤公立高校での多読指導 宮本恵理子 (神奈川県立港北高校)
  - ⑥長期多読授業を通してわかったこと 西澤一 (豊田高専)
  - ⑦データで見る大学英語多読指導の成果—4年間の歩み 吉田弘子(大阪経済大学) 質疑応答

以上のように、非常にバラエティに富んだ優れた先進事例に触れることができ、今後の本学図書館の多読の取り組みを進めるにあたり、大変有益なセミナーであった。

## 5. 2012年度本調査研究の実施

- (1) 情宣活動の強化；ポスター・パネル、リーフレット等の作成について

2011年度の予備的調査研究の検証結果をふまえて、2012年度はエントリー学生と賛同教員の増加を目指した。そのため的情宣活動強化の取り組みとして、館内外に2011年度多読ラリー「てくてく English」の実績等のポスター・パネルを掲示し、エントリー学生の増加を図った。



【左：English シャワーのポスター】 【右：てくてく English のポスター】

冒頭に述べたように

本学図書館は全面業務委託を行っている。したがって、「図書館留学」を広報するためのポスター、チラシ等は全て委託職員である司書自らが作成したものである。作成にあたって必要な経費は用紙とインク代のみと、経費節減に大いに寄与している。

当初は、2011 年度予備的調査研究結果のリーフレットを作成し、多読ラリーの教育上の効果等について、教員にアピールすることを通じて、賛同教員の増加を図る計画であった。幸い研究助成に採択されたことが、先生方に大いにアピールできた結果、賛同教員は採択前（2011 年度）の 4 人から 8 人へと倍増した。そこで、リーフレットの作成に変えて、エントリー学生をさらに増やすべくプロモーション・ビデオ（DVD）を制作した。

撮影にあたって、日本人のエントリー学生 13 人とリーズ大学からの交換留学生 4 人が出演してくれた。5 分間の短いビデオであるが、日本人学生とネイティブ学生とのわきあいあいとした雰囲気になった「図書館留学」の楽しさが伝わる良いビデオを制作できた。本ビデオは、新入生全員を対象に実施するライブラリースターの際に上映し、エントリー学生の更なる増加を図る所存である。



【プロモーションビデオ撮影風景】

## (2) 第三者評価について

当初は、2011 年度予備的調査研究及び 2012 年度本調査研究（前期分）で得られた成果を図書館総合展のポスター・セッションにエントリーすることを通じて、図書館関係者からの第三者評価を得ることを計画していた。

上記ポスター・セッションに加えて、以下の研究会、セミナー等でプレゼンする機会が与えられ、図書館関係者から第三者評価を受けることができた。

- ①サンメディア主催第 8 回学術情報ソリューションセミナー in 大阪（2012 年 6 月 22 日）では、多数の応募の中から選ばれた。
- ②大学図書館問題研究会・全国大会第 7 分科会（2012 年 8 月 5 日）
- ③丸善主催第 14 回図書館総合展フォーラム（2012 年 11 月 21 日）では、事例報告に加えて、パネリストとしても登壇した。

### ①サンメディア主催第 8 回学術情報ソリューションセミナー in 大阪

2012 年 6 月 22 日（金）に開催された同セミナーにおいて、「図書館留学」について事例発表した。同セミナーには、西日本地区の大学図書館関係者等 100 人以上が参加されていた。

当日の参加者から得られたアンケート結果は、以下のとおりである。37 人中 36 人（97%）の方から参考になったとのコメントを頂戴できた。また、図書館員が教育に関わること、図書館からの情報発信力、図書館単独ではできない取り組みを他から協力を得ることによって成しとげたことなどを評価していただいた。

[アンケート結果]

- ◆大変参考になった・・・ 15
- ◆参考になった・・・・・・ 21
- ◆参考にならなかった・・・ 0
- ◆どちらとも言えない・・・ 1

<自由記述>

- ◆図書館員から教育に関わることを見習いたいと思った。
- ◆「楽しむ」工夫、企画だったり、ポスターデザインなどが感じられた。
- ◆図書館留学の発想とてもよいと思う。どのようにこの取り組みを学生さんに広報されているのかも聞いてみたい。
- ◆図書館からの情報発信力のすばらしさを感じた。新しい取り組みと思う。
- ◆お話を伺うのは2度目だが、さらに進化しているようで、感銘を受けた。
- ◆図書館発の取組みで、実行、良い結果をだされていることはすばらしい。
- ◆図書館単独ではできない取り組みを他から協力を得ることによって成しとげたことはすばらしい。
- ◆大学が抱えている問題に図書館が対応すべく企画され、運営が見事に図書館として、教育機関としてマッチしている事が素晴らしい。ネックは語学力（司書）だと思いますが・・・
- ◆1回限りの企画ではなく、4年間を通してサポートしていくというところがとても有意義だと思った。図書館がどのように教育に関わっていけばよいか考えていく上で、参考になった。
- ◆本学も5年前から教員と連携して図書館で多読を推進しており、当館にとってタイムリーな内容で興味深く拝聴した。

②大学図書館問題研究会・全国大会第7分科会

2012年8月5日（日）に開催された同研究会では、問題意識の高い優秀な大学図書館関係者の前で「図書館留学」について事例発表を行うことができた。

当日の参加者から得られたアンケート結果は、以下のとおりである。

[アンケート結果]

参加者：13名／回答者8名

回答：大変良かった7名、良かった1名

[寄せられたコメント]

- ・神戸学院大学の発表が大変よかったです。
- ・理論と実践という2つの材料があった。
- ・教員との協働はどこも難題なんだとわかって力強く感じた。
- ・利用者支援の企画に悩んでいるので参加した。専任職員が積極的に取り組



む姿勢等が参考になった。

- ・インプットだけでなくアウトプットする場を提供できているのが素晴らしいと思った。ポスターやチラシが洗練されているのに、デザイン会社へ委託されていないと聞いて驚いた。

### ③丸善主催第 14 回図書館総合展フォーラム

2012 年 11 月 21 日（水）に開催された同フォーラムでは、200 人以上の図書館関係者の前で、「図書館留学」について事例発表を行うことができた。同フォーラムのタイトルは、「実践事例から探る教育・学習支援の展望ーヒト・モノ・カネの不足を「知恵」と「協働」で乗り越えるー」で、事例報告に加えて、野末俊比古先生（青山学院大学 教育人間科学部准教授）がコーディネーターをされたパネルディスカッションでも、パネリストとしても登壇する機会をいただいた。

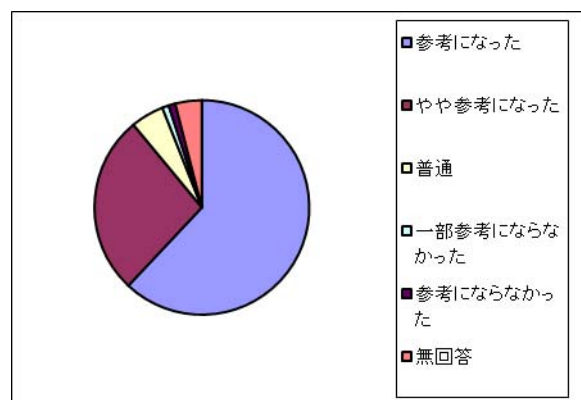
当日の参加者から得られたアンケート結果は、以下のとおりである。

[アンケート結果]

#### 第 14 回図書館総合展フォーラム アンケート集計

##### □事例発表②(神戸学院大学図書館)

参考になった	62
やや参考になった	27
普通	5
一部参考にならなかった	1
参考にならなかった	1
無回答	4



#### 第 14 回図書館総合展フォーラム アンケート集計（感想）

##### 事例発表②(神戸学院大学図書館)

図書館留学の企画が素晴らしいと思いました。英語力に力を入れている学校はあまり無いのかも知れません。”人材育成”にも繋がるかと思いました。

人的支援サービス→図書館司書が存在する意味が印象的だった。



あるテーマに絞って学習支援で成果を出すという視点がこれまでなかったので、参考になった。委託業者で実行しているのも興味深いです。
大学との対応良かったと思います
膨大な資料のポイントをうまくまとめ、分かりやすかった。図書館と英語を結びつけるというのは新しい図書館の形として学生のためになる素晴らしい形だと思う。全ての大学で取り上げて良いと思う。自分が学生なら、このような図書館に通いたい。内容は関係ないがプレゼンの仕方として参考になった。
連携・協働が多く語られていましたが、スタッフの労働環境は大丈夫なのでしょうかと思いました。
大学界全体はグローバル人材育成を一つの大きな柱として、動いていると思うが、その柱とうまく合致している取り組みだと思いました。図書館のコンテンツを有効に活用している取り組みで参考になりました。
留学支援について、本学でも参考になる話が聞けました。
とてもわかりやすく、おもしろいお話でした。楽しくまなんでいける学習環境が整備されており参考にしたいです。
「英語」というテーマで図書館＜大学全体で取り組むことで、目標に向かって努力されていることが分かった。
図書館留学という名称は誤解を招く。要は英語力のスキルアップ策の展開でしょうか。
わかりやすく、面白い話を聞かせていただいた。
ユニークで目が開かれた気がします。
たくさんのアイデアと活動を知ることができて良かったです。
委託業務ならではの業務を検討中でしたので、参考になった。
楽しみながら英語力がアップできて、神戸学院の学生が羨ましく思います。
モチベーション作りにさまざまな工夫をされていて実践されているのが素晴らしいと思いました。
留学生とのコラボ、教員との連携がここまでの効果を出すとは驚きました。委託業者スタッフのスキルもかなり高いのではないのかと思います。
分かりやすいプレゼンだった。学生の英語力向上に多様なアプローチを取りながら成果を上げておられて優れた取り組みだと思った。
多角的な取り組みにいたく感心しました。ユーモアのある語り口が非常に魅力的でした。

英語を介したという点をクローズアップされていましたが、図書館全体への波及効果が何かあったのかが興味を持ちました。
ヒト・モノ・カネ不足を前提とした”工夫”というセッションの趣旨からは外れた内容ではないでしょうか？残念ながら得るものがありませんでした。(話としてはとても面白く楽しめました)
わが大学でも先生主体によるリーディングマラソンを行っているが、図書館主体でも行えるものだったと思った。
目的が明確で”見える”分かりやすい取得で、どこの大学でも参考になるものだと思います。
業務委託スタッフ(丸善)からの提案だったのでしょうか？学生・教員・留学生との連携の成功例だと思います。寄付金1000万円大事に使ってください。
話の内容は参考になった。私立大学の采配の自由度の高さを受け取ってしまいやすい。
図書館留学、見習いたいと思います。まずは図書館員の英語力向上からですが…。
詳細な資料で内容が良く分かり、ユーモアのある発表で聞いていて楽しかった。
良い取り組みだと思いました。
発想だけで色々なことができると思った。
AD、CD、DPとの連携、大学に依存した問題に併せて図書館員が動く仕組みは大変参考になった。
とてもおもしろい企画だと思いました。大学の特色にあったサービスで、利用者からの反響が大きいことは図書館にとってもとても嬉しい結果です。
図書館スタッフの発想でこれだけ立派な取り組みができるものかと感心しました。スタッフのモチベーションが高く、同じ方向を向いているところが素晴らしいです。
小畑さんのファンになりました。人が頑張っているから図書館がうまく回るのだと思いますが、頑張る風土を作るのもヒトですね。ぜひ拝見しに行きたいです。
図書館留学のメニューの多さに驚きました。
自館の方針、企画立案の検証が明確であることが参考になりました。高大連携は参考になりました。
一日留学に言ってみたくなりました。
英語力向上のための方策としてとても興味深く感じた。インプットからアウトプットまできめ細かいサービスが印象的だった。

図書館留学、どれもキャッチーで内容も学生が喜びそうでうらやましくなりました。
非常に興味がある事例でしたので、詳しい内容を伺えて参考になりました。
お金がうまく使われているなあと感じた。図書館と業務委託などの運営がスムーズに行われていることが伺われた。
図書館の職員はどう育てたら良いか。
お聞きしたのは2回目です。パワーある発表会でした。
非常にいい取り組みをされていると思います。企画立案は委託業者との事でしたが、打ち合わせなども綿密に行っていたのでしょうか。スタッフの皆さんの技能に感服です。
内容はマネできないが、英語資料の購入に参考にしたい。
本学においても国際化が大きな問題となっており、今回の地道かつアイデアあふれる活動は非常に参考にもなり励みにもなった。
委託の方が中心という業務ということで、専任職員の方の立ち位置も知りたいと思いました。
面白い取り組みだと思いました。
学習支援のさまざまなアプローチの一つとしてまた成果があがっている事例として興味深く聞きました。
留学生との取り組み、興味深く拝聴しました。
「英語」というテーマに絞っているのが良いと思いました。
人的(援助)支援サービスが如何に大切か分かった。←どの報告者においても
大学の特性がある
英語に特化した支援ということで非常に興味深かったです。メニューの豊富さがすばらしいと思いました。
助けを欲している学生のためにできることがあるとのコメントにうなずけるものがあった
本学でも多読の図書はあるので参考にさせていただきます。

### 【パネルディスカッション】

<p>人による学習支援は工夫がいるし、勉強になりました。公共図書館でもヒントにして支援できればと思います。</p>
<p>ホンネ(本質)を聞くことができて良かったです。</p>
<p>進め方が良かったのか、理解しやすかった。</p>
<p>コーディネーターと小畑氏のまとめがすばらしかった。</p>
<p>学生に時間的余裕がない。自分が学生だったころを考えると、今の学生はこんなにも、いろいろと活動しているのか！と驚くばかり。どのように協働してゆくか考えもので、今は細々と学生の自主的グループと繋がっています。</p>
<p>学生自身の感想として、図書館で学習支援を行うことのメリットを伺えて良かったです。私自身の所属期間では学生スタッフを公募してしますが、成績優秀者を推薦して貰うという方法(静岡理工科大学)もあるのだなと思いました。皆さんできるところからやっているの、非常に参考になりました。</p>
<p>質問内容が興味深かったです。</p>
<p>「まとめ」が大変参考になった。</p>
<p>できることから始めることが大切だと思いました。(また工夫も大切ですね)</p>
<p>図書館内で完結する時代ではないことを痛感しました。</p>
<p>学生参加が新鮮で良かった。</p>
<p>学生スタッフのメリットについて気になっていたのですが、学生本人のリアルの声が聞けて良かった。</p>
<p>茨城大学の方からのご質問&amp;パネラー回答と、三重大の方からのご質問&amp;パネラー回答、とても参考になりました。</p>
<p>具体的な事例を聞かせていただきました。参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。</p>
<p>野末先生のととても和やかで安心感のある司会、すばらしかったです。(総括など含めて、より盛り上げ良く、そして啓発する司会でした)会場からの質問もとても良かったです。</p>
<p>一步踏み込んだお話が伺えたと思います。</p>
<p>SA 制度において学生のメリットという点で考えたことがなかったので、きちんと検証したいと考えます。良い刺激となる質問があり、感謝します。</p>
<p>質の維持、学生図書館員の努力は欠かせないのだなあとおもいました。</p>

各大学の特徴が現れていた事例発表&パネルディスカッションだった。コンシェルジュ・チューターの経験を本人の履歴の中で有利になることは良いことだと思います。
質問が良かった
学生の前向きな姿勢を伺えて良かったです。学生を参加させるという新しいスタイルが定着して良いですね。会場全体が暑かったです。
巻き込む力を見せていただけた気がする。
図書館スタッフ・コンシェルジュの教育について自館にも活かせると思ったため(5段階評価で5.参考になった)
それぞれの取り組みとも、一つの目的に先鋭化していることが成功の鍵の一つと感じております。大変参考となりました。ありがとうございます。
学生への責務として、自館でできることに取り組みたいと思いました。
協働、スタッフの質の向上は学校図書館(私はそこに関係しています)の参考になりました。館種を超えて！
質問も、それに対する回答も全て参考になるもので、非常に参考になりました。
「ないけどやるべきことがある」心にしみました。
野末先生の手際の敬服
学生がチューターになるメリットがいろいろあることが分かりよかったです。いろいろな学習支援体制があることを知ることができてよかった。
時間が短かった。
とても良かった。何かやってみようという気になりました。
学習支援をこれから考えていかななくてはならないと持っているので、大変参考になりました。
図書館に求められる役割を改めて感じると共に、図書館スタッフ・学生スタッフのスキル向上が大切だと思いました。
各大学とも手探りでやっているのだなと感じました。とにかく実行してみることが大事で、まずは動くことが必要だと感じます。今後周りも巻き込んで、事業を充実させていきたいと思います。
大学規模、館種の違いなどはあまり関係ないとの見解に同感

#### ④図書館総合展ポスター・セッション

2012年11月20日・21日に横浜で開催された図書館総合展ポスターセッションへ参加した。同セッションへの参加は、研究助成の対象事業に認定されているので、ポスターのタイトルは、研究助成の研究テーマと同一の「図書館留学；教職協働の学習支援への取り組み～語学力の向上に向けて～」とした。ポスターは、もちろん全て委託職員である司書の手作りである。

11月20日・21日の両日は、図書館から委託職員2人と専任職員1人の3人がポスターの前で終日、来場者に対して「図書館留学」の取り組みについて時間の許す限り説明した。その結果、本学図書館のポスターは参加図書館79館中の最優秀賞を受賞することができた。その後、カレントアウェアネス（国立国会図書館ポータルサイト）に掲載されるなど、図書館関係者より反響をいただいている。



【ポスターセッション開催風景】

### (3) エントリー学生の自己評価について

#### ① 「英語で Talk ～Let's enjoy English～」

多読ラリーにエントリーした学生が自身の英語力アップを体感できる『場』を提供することを目的として、交換留学生として在籍している英国籍の学生に昼休みや放課後に『図書館留学コーナー』で待機していただいた。

「図書館留学」メニュー⑨「英語で Talk ～Let's enjoy English～」は、実際にネイティブスピーカーの交換留学生とエントリー学生がさまざまなトピックで自由に会話を楽しめる空間を提供してきた。「英語で Talk～Let's enjoy English～」は、エントリー学生の自己評価の場と位置付けている。

2012年度の開催実績は以下のとおりである。

開催日	5月30日(水)	6月27日(水)	9月24日(月)	10月29日(月)	12月4日(火)
参加人数	22人	21人	2人	17人	2人 (KPC)

当日の参加者から得られた感想文は、以下のとおりである。

[感想文]

#### “英語で TALK” 参加者感想文 (2012.5.30)

◆リーズ大学の方たちと話せて、本当に楽しかったです。

始めは、うまく話せないため、とても緊張したのですが、留学生の方や参加者の方が親切で、良い雰囲気を作って下さったので、リラックスして話すことができました。

また、文化の違いなどの話も聴けて、勉強にもなりました。

企画してくださった方、図書館の方に感謝しています。ありがとうございました。

◆楽しかった。

英語は、文字なら出てくるけれど、いざ話そうとすると出ないことが多かった。

会話は難しかった。

◆今回、初めて留学生と英語で会話を行い、これまで、大学で留学生と交流することが無かったので、大変良い刺激になりました。

「英語でトーク」では、自己紹介から、その後の会話まで英語しか使用することはありませんでした。日本に居ながら生きた英語を聞き、そして長い時間コミュニケーションをとることは中々できることではありません。

しかし、このように留学生と積極的に機会を設けてもらえることによって楽しく、そして有意義な時間を過ごすことができたと思います。

次回以降も、ぜひ参加していきたいです。

◆実際に参加してみると、久しぶりの英語に触れることが出来たので楽しい時間が過ごせました。元々、英会話が好きなので、参加できて良かったです。

図書館に英語の本や絵本が置いてあることは知っていましたが、留学生と話し合う・・・という堅苦しいですが、おしゃべりできる機会があるとは知りませんでした。もう4回生だし・・・と諦めずに、時間があれば、また留学生のみなさんとおしゃべりしに行きます。楽しい時間をありがとうございました。



【「英語で TALK」で楽しく会話】

#### “英語で Talk” 参加者感想文 (2012.06.27)

◆英語を勉強しないとダメだなと思いました。(笑)

◆またぜひとも参加したいと思わせる会でした。

◆初めてだったので緊張しましたが、楽しく有意義な時間を送れました。次回も参加したいです。

◆質問内容は分かるのに、自分からいう言葉がすぐに出てこないし、文を作るのが難しいと思いました。また参加したいです。

◆楽しかったです。また参加したいと思いました。ありがとうございました。

◆英語を話すいい機会になりました。もっとこじんまりした雰囲気になれば、みんな同じぐらい話せるのかなと思いました。

◆初めてでしたが、気軽に話せました。

◆緊張した。自分の英語の語い力の無さが良く分かった。また、こういう機会があったら参加したいし、積極的に話したいと思った。とにかく緊張した。

◆緊張したけど楽しかった。汗かいた。次はもっと話せたらいいなあ～。

- ◆最近、英語に触れる機会がなかったので、とても良い機会になりました。とても楽しかったです。また機械があれば参加したいです。ありがとうございました。
- ◆普段、外国の人と話すことがないので新鮮だった。楽しい時間を過ごせた。また参加したい！！
- ◆突然の参加でおどろきましたが、楽しかったです。全然英語を話せないのですが、良い経験になりました。
- ◆非常に良い経験をさせていただきました。またぜひとも参加させて下さい。
- ◆英会話の先生のように優しく教えて下さった事に感謝します。ありがとうございました。
- ◆参加するのに緊張したけれど、楽しかったです。また参加したいです。
- ◆楽しかったです。英語を勉強するモチベーションがあがりました。次回もぜひ参加したいです。
- ◆楽しかったです。もっと交流したいです。
- ◆最近、英語がしゃべれるようになって、会話したい！って思いが強くて初めて参加しました。この2年でお金を貯めて、4回生になる春にワーホリでオーストラリアに行きたいって思ってます。人見知りも直していきたいと思います。緊張したけど楽しかったです。

#### “英語でTalk”参加者感想文 (2012.10.29)

- ◆周りの人が上手に英語で会話しているので、気後れしてしまって、会話にあまり参加できなかったのが、心残りでした。
- ◆もっと話せればよかった。
- ◆皆さんすごい英語が上手で自分は何も話せなくてもっと英語を勉強して話せるようになりたいです。
- ◆他国の友達がほしかったので参加しました。夏に留学へ行き、英語が好きになったので、図書館でも英語の本を借りるようになりました。とてもいい機会でした。ありがとうございました！
- ◆初めて来ましたが、ずっと国際交流したいと思っていたのでいい経験になりました！ありがとうございました！
- ◆大きなグループになると大変だな~と思いました。話す機会になって非常に良かったです。
- ◆留学生と会う機会がないので、貴重な時間だった。
- ◆みんなエライです。
- ◆2回目ですが、とてもおもしろかったです。次回はもう少し長く参加したいです！！また呼んで下さい。
- ◆よく英語がききとれなくて、話せなくて、残念でした。でもいい経験ができたと思います。
- ◆前回よりも人数が多く、圧倒されましたけど楽しかったです。ありがとうございました。



- ◆ふだん英語をしゃべる機会がないのできちょうな体験ができてよかったです。英語はほとんどかんたんなことしかいえなかったり、リーズの子がしゃべっていることがわからなかったこともけっこうありましたが、周りがしんげんにきいてくれたり、なんとか伝えようとしているすがたをみて、自分もできるかぎりしてみようという気になりました。
- ◆英語を話す機会がなかなかないので参加しました。英語は苦手なので、多くのことは話せませんが、このように留学生と話せる機会があるのなら、参加していきたいなあと思いました。私の英語が通じたかは、分かりませんが、楽しい時間を過ごせました。
- ◆少しの時間でしたが、自分の英語のできなさに気づいた。次回もあれば、参加したい。それまでにもっと話せるようにしたい。

参加学生の感想から、留学生との英会話を楽しむだけでなく、自らの英語力を再認識する「場」となっていることが伺えた。「英語で Talk～Let's enjoy English～」は、正しくエントリー学生の自己評価の「場」としての機能を十全に果たすことができた。

## ②Reading Square ～英語で語ろう！～

「図書館留学」メニュー⑦Reading Square ～英語で語ろう！～は、「英語で Talk ～Let's enjoy English～」と同様にアウトプットを目的としている。多読ラリー「てくてく English」でインプットを補い、その次の段階として実際に英語で話す活動である。毎回、多読用図書を1冊選び、英語担当教員と一緒に読み、その内容について英語で質疑応答したり、話し合ったりするものである。なお、英語担当教員はボランティアで、有瀬図書館の共同閲覧室で実施している。



【「Reading Square」の実施風景】

2012年度の実績は以下のとおりである。

開催日	10月22日(月)	11月26日(月)	12月10日(月)
参加人数	5人	3人	1人

当日の参加者から得られた感想は、以下のとおりである。

[感想文]

### “Reading Square”参加者感想文 (2012.10.22)

- ◆まだまだ英語の力が無いなと実感した。積極的に行けたらと思った。
- ◆みんな英語がうまかった。話せるようにはなりたかった。
- ◆2週間に1回でお願いします！
- ◆話す機会になってよかったです。

#### “Reading Square” 参加者感想文 (2012.11.26)

- ◆英語で 90 分話すことができるので、とても良かったです。(人文学部 3 年生)
- ◆英語のみで過ごす時間を持てたことがよかったです。これくらい的人数だとやりやすいと感じました。(人文学部 3 年生)
- ◆途中から参加したので、次は最初から参加したい。もっと、この授業に入り込めるように英語力を上げたい。(法学部 2 年生)

#### “Reading Square” 参加者感想文 (2012.12.10)

- ◆英語 only で大変濃い時間を過ごすことができました。終わった後に、すぐ日本語が出ない体験もよかったです。(人文学部 3 年生)

参加学生の感想から、「Reading Square ～英語で語ろう！～」も「英語で Talk ～Let's enjoy English～」と同様に、自らの英語力を再認識する「場」となっていることが伺えた。「Reading Square ～英語で語ろう！～」もエントリー学生の自己評価の「場」としての機能を十全に果たしている。

#### (4) 教員からの評価について

2012 年度本調査研究では、賛同していただいた先生方の担当される授業で、多読ラリー参加前・参加後の学生の英語力を測定していただくために、大量のデータを収集していただいた。目下、学生アルバイトを動員して、当該データを所定のフォーマットに入力している。入力完了後、賛同していただいている先生方の協力のもと、当該データを分析していただき、多読ラリー参加前・参加後の学生の英語力の伸びを検証していただくことで快諾をいただいている。

以上の状況により、検証結果については本報告書では、記載することができず誠に申し訳ございません。検証結果については、8 月 30 日に中京大学で開催される研究大会の席上で披露できるよう鋭意取り組みますので、何とぞご容赦いただきますようお願い申し上げます。

また、「図書館留学」事業に強く賛同していただいている森下先生と安田先生が、2012 年 10 月 13 日から 15 日にかけて、浜松で行われた全国語学教育学会(JALT)において 2012 年度本調査研究発表の一端について発表された。安田先生より以下の報告を受けた。

##### [学会発表報告]

発表は初日である 13 日の 17 時から 25 分間で行われた。例年夕方方の時間帯から聴衆の数が減ってくるため、20 部程度しか配布資料を用意していなかった。しかし、予想に反して教室内に立ち見ができるほどの方が見に来てくださった。人数を数える

余裕はなかったが、30人以上は来ていただいていた。聴衆者の中には、多読の権威の方々が来てくださっていた。関西（近畿）大学の高瀬敦子先生、豊田高専の西澤一先生、神戸国際の魚住香子先生の3人がそろって座っておられ大変恐れ多かった。発表後、魚住先生がお声をかけてくださって、「関西方面において、多読関係で神戸学院大学のことを耳にしました」とおっしゃっておられた。図書館留学の内容も前半で宣伝できたので、これでまた注目されることを期待している。

さらに、多読ラリーにエントリーした学生の活動（Book Review 等）を当該授業の成績にポイントを加算していただくよう働きかけた結果、2人の先生が授業で多読ラリー、多聴ラリーを取り入れてくださった。法学部の授業の場合、半期で50冊／1万5千語以上読んで、20%成績に加算してくださった。

## 6. おわりに

私立大学図書館協会の2012年度研究助成「機関研究」に採択いただいたことがきっかけとなり、本学図書館は、予想すらしなかった寄贈を受けることとなった。2012年の学校法人神戸学院の創立100周年を祝い、大学同窓会は学校法人神戸学院創立100周年記念事業募金に1,000万円を寄贈することを決定した。創立100周年記念寄付金は、同窓会からの「智の寄贈」「学びの寄贈」として今後10年間にわたり次の事業に使われることとなった。

①智の寄贈：図書館留学「てくてく English」の英語教材購入費（総額370万円）

②学びの寄贈：TOEIC講座受講費の補助金（総額300万円）

さらに、留学費の一部補助（総額200万円）も2013年度からスタートし、補助対象者は10年間で10人を予定している。

研究助成に採択いただいたことで、同窓会役員に対しても大いにアピールすることができ、「図書館留学」について同窓生からも評価されるに至った。その結果、外部資金の獲得によって、多読・多聴教材の充実に寄与できる結果となった。

今後、「図書館留学」事業を一層推進するためには、以下の課題に向けて取り組む必要があると考えている。本学の英語科担当教員は、その大半が、非常勤講師である。「てくてく English」・「English シャワー」へのエントリー学生を更に増やすことができるかどうかは、いかに非常勤講師である英語科担当教員と連携できるかにかかっている。そこで、次年度は、英



【寄贈目録を手渡す前田同窓会長=左】

語科の全担当教員に「てくてく English」等図書館留学の取り組みについての詳細な資料を配布するとともに、必要であれば、図書館司書を先生方の授業の教室に差し向

けて、説明させていただくことも可能であるとの文書をもって、先生方へのアプローチを行うことにした。

また、図書館司書・連携教員・エントリー学生の三者が、インタラクティブにコミュニケーションがとれるサービス（ブログ等）を是非導入したいと考えている。同サービスを導入することで、図書館内のみならず館外でもエントリー学生同士で、また、連携教員や図書館司書を交えてコミュニケーションを深めることにより、英語学習のモチベーションを高めることができるのではないかと期待している。

現在、大学図書館は、電子ジャーナル、電子書籍等電子媒体の資料の普及により、非来館型の図書館利用が増えてきている。今まさに大学図書館と図書館司書の存在意義が問われる時代を迎えているといっても過言ではない。

2011年4月から開始した「図書館留学」の取り組みを振り返ってみると、今後の大学図書館の存在意義を大学当局にアピールできる方策が明確になってきたのではないかと私どもは感じている。

学生の自発的な学び、主体的な学びに応えることができる適切な「場」（図書館留学コーナー）と適切な「資料」（豊富で優れた多読・多聴教材）を大学図書館で提供するとともに、図書館司書が主導権をとり学生一人一人に対して真摯に向き合い、深く関わっていくことによって、初めて実現される、司書による人的支援サービスの今後の行方、それこそが、教育の場としての図書館の位置付けの明確化へと繋がるのではないかと考えている。教育の場としての図書館の位置づけが明確化できれば、大学当局の予算削減等に対しても力強く抗弁できるのではないかと確信している。

## 謝辞

末筆ながら、図書館留学「てくてく English」に対しまして、以下の関係者の皆様方から、温かいご支援ご協力を頂いております。この場をお借りして感謝を申し上げます。

- 1) 私立大学図書館協会（2012年度研究助成「機関研究」）
- 2) 神戸学院大学同窓会『智の寄贈：図書館留学「てくてく English」の英語教材』
- 3) 神戸学院大学経営学部 森下美和講師  
神戸学院大学法学部 安田有紀子講師  
他英語科担当の先生方
- 4) オックスフォード大学出版局、丸善株式会社神戸支店、同図書館サービス事業部関西センター、アデコ株式会社神戸支社、株式会社サンメディア、大学図書館問題研究会

## 注・引用文献

- (1) 小畑佳弘、藤掛久美子、森下美和、安田有紀子「図書館留学：教職協同による学習支援」教育開発センタージャーナル. 4, 2013, 56-57.

神戸学院大学図書館 私立大学図書館協会研究助成「機関研究」  
研究プロジェクト・チーム

研究代表者 春藤 久人（神戸学院大学図書館 図書館長）  
共同研究者 小畑 佳弘（神戸学院大学図書館 図書館事務グループ長）  
研究メンバー 森岡 寿昭（神戸学院大学図書館 図書館事務グループリーダー）＊  
研究メンバー 石原 明美（神戸学院大学図書館 図書館事務グループリーダー）＊＊  
研究メンバー 藤掛久美子（神戸学院大学図書館 利用サービス部門統括責任者）  
研究メンバー 高橋 有米子（神戸学院大学図書館 整理部門業務責任者）  
研究メンバー 岩本 速雄（神戸学院大学 ポーアイ図書館業務責任者）

＊ 2012年4月1日～5月31日

＊＊2012年6月1日～2013年3月31日

執筆・編集担当

小畑 佳弘（神戸学院大学図書館 図書館事務グループ長）  
藤掛久美子（神戸学院大学図書館利用サービス部門統括責任者）